

神の国は近づいた

シリーズ～新イエス～

2025/3/9

マルコ福音書1章14～15節

ヨハネが捕らえられた後、イエスはガリラヤへ行き、神の福音を宣べ伝えて、「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」と言われた。

「神の国」とは①

•「国」という言葉の意味

•「場所」のことではなく、「支配・統治」のこと

•神がこの世界を創造された時、人間に統治を委ねられた

•「神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された。神は彼らを祝福して言われた。『産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地の上を這う生き物をすべて支配せよ。』」創世記1:27-28

•この世界を支配するために「**神にかたどって**」創造された(神の性質:愛・平和・正義・調和・美…)

「神の国」とは②

- 人間はこの世界の統治に失敗し、混乱・破壊・殺戮・奪い合いで満たしてしまった
 - 最初の夫婦は責任転嫁をし、最初の兄弟は殺し合った
 - 新しい家族(ノア)で再スタートしたがダメだった
- 「律法」を土台としたサンプル「神の国」
 - ユダヤ人に対して、神が願っておられる「統治」の原則(ルール)として「**律法**」を与えられた
 - 「律法」に基づいて生活するならば「祝福され」、そむくなら「呪われる」

「神の国」とは③

- サンプル「神の国」を失ったユダヤ人
 - 「律法」の根幹である「十戒」の第一戒すら守れず、国を追われることになった
- 主の憐みによって一部の民が残ったが…
 - 今度は「律法」の本質を見失い、その言葉だけを自分たちに都合よく利用するようになった
 - イエスが「律法」を完成すると言われたのはそのためである
 - 「わたしが来たのは律法や預言者を廃止するためだ、と思っはならない。廃止するためではなく、完成するためである。」マタイ5:17

「神の国」とは④

- 「神の国」とは、創造主が本来この世界に望まれた姿
 - 「神のかたち」による統治
- 特に重要なのは「愛」に基づく関係
 - 「あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」ヨハネ13:34
- イエスは自ら愛の模範を示された
 - 「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。」ヨハネ15:13

「時は満ち、神の国は近づいた」

•「時は満ち」たとは

- 天地創造以来、神は様々な働きかけを行ってこられ、ここに至ってついに本物の「神の国」を地上に出現させる準備が整った
- イエスはこのタイミングを待っておられた

•「近づいた」とは

- (物理的に)すぐ近くまでやってきた(到来した)
- (時間的に)終末に現れる完全な神の国が始まった(神の国は「種」にたとえられる)
- 実際には「近づいた」のではなく、イエスが「**持ち込まれた**」のである！

「悔い改めて福音を信じなさい」

•「悔い改める」とは

- 「向きを変える」という意味
- 罪を認めて許しを請うという意味もあるが、それ以前に**正しい方向に心を向ける**ことを意味する

•「福音」とは

- イエスによってもたらされた「良い知らせ」
- 実は**イエス自身**が福音である

•「信じなさい」とは

- 心で受け止めるだけではなく、教えに従いその通り実行すること

イエスが神であるからこそ、

「**神の国**」がどのようなものであるか知っていた

人間は「神の国」を知らず、
かえってこれを破壊してきた

これまでとこれからが分かった上で、
「**時は満ちた**」と判断できた

人間には適切なタイミングは
分からない

イエスが神であるからこそ、

自ら神の国を持ち込み、
「近づいた」と宣言できた

人間は「神の国」を
遠ざけてきた

向かうべき正しい道を自ら造り「悔
い改め」(向きを変えよ)と促した

人間は自ら正しいと思う道を
自分勝手に進むだけ

イエスが神であるからこそ、

すべての人類にとっての「福音」
を語り、自ら福音となった

不変にして普遍の真理
を語れる人はいない

そして絶対的な確信をもって
「信じなさい」と宣言した

全責任を負う覚悟がなければ
「ついて来い」とは言えない

神であるからこそその宣言

ヨハネが捕らえられた後、イエスはガリラヤへ行き、神の福音を宣べ伝えて、「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」と言われた。

マルコ福音書1章14～15節